



市辺地区まちづくり協議会広報誌

万葉のまち 市辺

第42号

平成30年1月



12月2日「親子凧作り、凧揚げ大会」
晴天に舞う凧と凧作りをする子どもたち

発行：市辺地区まちづくり協議会／東近江市市辺町2391
市辺コミュニティセンター内 TEL&FAX 050-5802-3392
ホームページ 万葉のまち市辺 ichinobe.com



新年のご挨拶

市辺地区の皆様、新年おめでとうございます。

平素は市辺地区まちづくり協議会の事業並びに運営につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。本年も当協議会へのご理解とさらなるお力添えをお願いするとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りします。

今年も社会情勢は厳しいといわれていますが、昨年改定しました「万葉のまち『市辺地区まちづくり計画書』」にもとづき、安全・安心に暮らせるまちづくりを目指すとともに、絆と心の豊かさを育むまちづくりに役員一同頑張りたいと思います。

皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

市辺地区まちづくり協議会
会長 須田 智廣

平成29年 市辺地区文化祭

昨年の11月8日（水）から5日間、市辺コミュニティセンターにおいて、文化祭実行委員会の主催による市辺地区文化祭が開催されました。今回も数多くの力作が寄せられました。この文化祭の出品は、市辺地区住民・市辺コミュニティセンターサークル会員・地区内在勤者、及び学校を通じての児童・生徒で、趣味や手作り作品の手芸・生け花・書道・絵画・工芸などの作品となっています。出品数は766点で、一般から66点、団体・サークルから161点、幼稚園83点、西小102点、布小97点、船中185点、小学生防犯ポスター72点の作品が出展されました。



蒲生野万葉短歌会入選作

◎一般の部

錚、太鼓遠音にききて春田打つ比良をのぞめば消えし残雪
観音の古刹を訪へば遙かなる蒲生野ひらけ秋茜舞ふ

蒲生野の水守り終えりひと夏を日焼けし老夫はおだやかに笑む

滋賀県東近江市

米野 達彦

滋賀県東近江市

北川 秀子

蒲生野のゆうやけを背にさようならいつかまたねと固い約束
朝桜中学校三年 村井 花香

ありがとう自然とほほえむまほうだねたつた五文字の不思議な力
朝桜中学校二年 西村 羽菜

すきやきのにおいと笑いがひろがって帰省する兄とかこむ食事
愛東中学校三年 森 千尋

雪野山登る暑さに山の風生きた心地にさわやかな緑
能登川南小学校五年 白根 智仁

ともだちは心と心をかわしてねけんかもするけど仲直り
五個荘小学校六年 湯田 惺舞

あたらしくできたブールは何億円しりたくなうちやう残りの残高
蒲生東小学校五年 中井 遙海

東近江市市民活動推進交流会 「わくわくこらぼ村」開催

去る12月9日（土）午前10時よりショッピングプラザ・アピア八日市店4階のアピアホール・研修室・展示ギャラリー会場等において、市民活動団体で地域の課題に取り組む52団体が一堂に集まり、パネル展示・販売・体験活動発表等の交流会が開催されました。

市辺地区まちづくり協議会自然環境部が、生ゴミ堆肥による省エネと無農薬の野菜を育てる活動をパネル展示、またビデオで生ゴミの堆肥化を説明しました。



最後にはステージで表彰式、閉村式が行われました。「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞は、東近江市の花「ムラサキ」を活用した「地域活性化プロジェクト」（永源寺）が受賞されました。化粧品「ムラサキコスメ」として販売されています。

今回は、地域課題を取り上げた「地域活性化」をテーマに活動されている団体が多く見受けられました。

減災のまちづくりについて

昨年から取り組みを始めた「減災のまちづくり」が、アンケート結果に基づいて具体的な活動を開始しました。私たち一番のねらいは、もしもの時に「自分の命は自分で守る」という意識の醸成と実践ということで、まず何をすべきかについて、その第一弾として皆さまへ

「地震に備えて」のチラシを配布させていただきました。今すぐ出来る内容となっていますので、是非実践して頂きたいと思います。

今後、第二弾、第三弾を発行したいと考えていますので、ご活用いただき「自分の命をどう守るか」を真剣に考えてもらいたいと願っています。しかし、自分の力では何も出来ない状況の方もおられるのも事実ですので、私たちに何ができるのか、何をすべきか等について勉強し、そのような方の不安を除くよう努力して行きたいと考えています。



歴史・文化部

御代参街道と市辺

11月26日（日）市辺歴史発見塾・歴史セミナー「御代参街道と市辺」が元八日市市史編纂室長の中島伸男氏を講師に迎えて開催されました。



講演は、東近江の街道「八風街道」と「御代参街道」から始められ、また明治2年の市辺付近の地図も配られ、その当時鉄道が計画された事、陸軍の飛行場があった事も話されました。

御代参街道は、東海道土山宿から中山道小幡を結んでいます。この御代参街道が整備されたのは、春日局が寛永17年（1640年）に伊勢神宮から多賀大社へ参詣した際に整備されたと伝えられております。街道には地蔵堂や道しるべが沢山あり、宿場町も数か所あり人馬の継ぎ立て場であった事なども話されました。

また、御代参街道の名称の起りは江戸中期頃には京の公卿たちの間で年に3回（正月・5月・9月）伊勢神宮と多賀大社へ代参の名代を派遣する習慣があり、その際に利用されたことから「御代参街道」の呼称が生まれました。

野々宮神社文書により御代参街道と呼ばれ始めた時期の話や御代参街道に伝わる昔話など街道にまつわる話もされ、またスライドを使った「御代参街道にいまも残る道しるべ」の話など豊かな内容でした。

加えて当地に拘わる「市辺押磐皇子墓と市辺村の名称、どちらが先でしょう」と治定年月日と市辺村の誕生についても、当時の治定をめぐる経緯や東市辺の神社にある「十禅師」の水鉢についてなど市辺についても説明されました。



道標左は御代参街道と八風街道の交点である八日市清水1丁目（親玉饅頭店前）

右道標は蛇溝町に位置し、御代参街道を今堀から長谷野に向かう布引台手前。

（見送り稻荷神社前）

編集後記

昨年に引き続き、新しい年の始めに布施山に登り御来光を拝む企画を地元有志が計画されました。この広報が届く頃には、すでに終わっていると思います。広報誌だけではタイムリーに情報を届けられない事がありますので、今回の企画は、12月中旬からホームページに掲載しました。閲覧され参加して頂いた方もあったかと思いますが、「万葉のまち市辺」で検索できますので、ホームページも時々見て頂きたいと思います。

今年も、「市辺地区まちづくり協議会広報誌」に楽しく明るい記事が掲載出来る年であってほしいと願っています。皆さまのご協力をよろしくお願ひいたします。（徳）



この人たちは、施設や病院に入院するよりも自分の家や住み慣れた地域で暮らしていくことを望んでいます。自宅・家族・近所の知人がなにより心の安らぎとなり、病気の進行を遅らせています。明日は我が身、認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくよう、地域のつながりを取り戻し、みんなが住みよい地域を作り上げていきましょう。』と述べられました。

部会だより

子ども健全育成部

12月2日（土）午後、好天のもと市辺コミセンにおいて親子凧作り、凧揚げ大会を開催しました。講師には大凧会館の鳥居先生にお願いして、楽しく丁寧に教えて頂きました。

18名の子ども・10名の大人の方と、子ども健全育成部・地域教育協議会・子ども会連合会のスタッフの皆様など総勢33名にて行いました。

今は「凧」といいますが、江戸時代この辺りでは「イカ」と言ったそうです。それが歌で「お正月には凧上げて、コマを回して」と唄われてから、全国的に凧という様になつたと、凧の歴史についても教わりました。

自分だけの凧も出来上がり、3時頃から市辺グラウンドにて凧揚げ大会を行いました。追い風にのって、凧がぐんぐん上がり、どの人の顔も満面の笑み、幸せなひと時を過ごしました。

安全・安心部

安全・安心部は、夏期および年末の防犯パトロールに参加しました。また2年間にわたり取り組んできた市辺地区の防災マップを、多くの方々のご協力により仕上げることができました。完成した防災マップは市辺地区ふれあい運動会の当日に展示し、各地区の自治会宛てに配布させていただきました。

地震等の自然災害への備えとして、昨年より「減災のまちづくりプロジェクト」がスタートしました。新年を迎える、安全・安心部としてもこのプロジェクトに積極的に取り組んでいこうと決意を新たにしているところです。

なお、以下の日程で「普通救命（AED）講習会」の開催を予定しており、多くの方の参加をお待ちしています。

普通救命（AED）講習会

日時 2月18日（日）午前9時～12時

場所 八日市消防署

地域活力部

万葉の森船岡山のムラサキ栽培は、春に植えてから例年のごとく7月末には全て枯れます。心が折れる時もありますが元来ムラサキの本籍地は近江・蒲生野・市辺地区である事を標榜している自負を持ってがんばっています。

今後植える場所を変えるべく、6月から9月初旬にかけて、午後に何度か現地に足を運び比較的日陰になる疊一枚ぐらいの場所を見つけました。10月には東近江市役所の了解を得て、11月に木の根を取り除き春にはムラサキの苗が植えられる程度に耕しました。当然の事ながら春から夏の気象状態が解りませんが、可能な限りサティスナブルな活動をしていきたいと思っています。

健康・福祉部

11月25日（土）に料理講習会を開催しました。大人14人・子ども3人と三世代入り混じって、お正月に向けての生麩作りを中心に挑戦して頂き、「なかなかの味やなあ！」と舌づみを打ち、皆さん満足そうでした。

ご家庭でも親と子どもが一緒に料理をされ、スキシップを図られてはいかがでしょうか。「食は命を養うもの」と言われますが、特に小児は、德育・知育・体育よりも食育が先んじると先人が教えてくれています。

当部では、今年もマクロビオティック（自然の摂理に従った食育）を進めて行く予定ですので、よろしくお願いいたします。

自然・環境部

昨年は、計25回、延べ250人以上の方にご協力いただいて活動を進めて参りました。また、見学研修やゴーヤ・サニーレタス苗配布では、地域の多くの皆様にご協力いただきありがとうございました。

早くから計画できることもあれば、天候や育ち具合から、急なお願いをする場合もあります。それでもその日に都合のつく方が参加して下さり、楽しく活動させていただいております。

さつまいもの収穫は、予定日に雨が降り、延期した前日は大型台風で大変苦労をおかけしました。作業後の休憩では「楽しく参加するには健康が第一」と話し合っていました。2月頃には、収穫した大豆での豆腐作りも計画しています。その節には皆様ご参加ください。

【TEL050-5802-3392 まち協事務局】

歴史・文化部

「人(1)の世(4)む(6)な(7)しい応仁の乱」1467年から「信長の近江侵攻（1568年）」までの100年、全国各地では大名が土豪に主家を奪われる、いわゆる下剋上の世となり、室町幕府の勢力も日に日に衰退の道を辿っていました。

この近江国においても、湖北は名門京極氏が浅井氏に乗っ取られ、蒲生では観音寺城の佐々木六角氏が観音寺騒動に端を発して、家臣団が城を捨て領地に帰ったことから、六角氏式目を制定せざるをえない状況となりました。

そこで、この蒲生郡はどうであったのか？との疑問を解くため「市辺れきし発見塾」を開催しますので、多数の出席をお願いします。

市辺れきし発見塾

日時 2月17日（土）午後1時30分～午後3時

講師 滋賀県文化財保護課副主幹 松下 浩氏

演題 「近江の戦国時代 佐々木六角氏の時代について」